

宮崎県延岡市南方方言における 身体感覚を表すオノマトペ

井上博文

はじめに

- (1) 調査地の概要；延岡市は、高千穂から流れ下った五ヶ瀬川が日向灘にそそぐ河口域に広がる、宮崎県北部域の中心都市である。南方地区は市街から五ヶ瀬川に沿って上流、5 kmほどにある山あいの農業地帯である。延岡市域の方言状態は、かつての転封や藩域の出入りで、かなり複雑に入りくんだ様相をみせるが、この南方地区は「地の方言」を濃く残すところである。
- (2) 調査年月日；平成3年10月10～11日
- (3) 教示者；黒木ハルエ氏(f.T.4) 滝田昌隆氏(m.T.8)
- (4) 調査者・調査場所 井上博文・いずれも教示者宅
- (5) 調査方法・調査時の様子；配布の調査票に基づく。録音あり。

I 全身の感覚

1-1. 快不快

サッパリ 快。アー サッ「パリ シ」タ。(f.T.4) あ、サッパリた。

1-2. 寒さ

ガタガタ(グタグタ) 震えるとき。不快。

ソコソコ(ソヨソヨ)・ソクソク 風邪をひく前など。不快。○ソ「コゾコ シ」テ「タ。シェ「ナカヘ」ンガ ソ「コソ」コ。(f.T.4) ソコソコは、音程がソコ(する)。

ズート(ズーット)・ゾット(ゾット) 不快。○フ「ロカル アガッタ ナンカ シ」テ サ「ミー「ナッタ トキヤ ホ」ラ ソー「ト シ」テ「フ「ネ」。(f.T.4) 鼻が上がりかたで寒くなった時は、鼻がズートしたというね。

ズンズン(ズンヤズンヤ) 風邪をひく前など。不快。○カ「ゼフク マエジャ「ソ」ラ モー イ「ヨ。セナカガ ソン「ゲ」ズ「ンヤズ」ンヤ スッ「トナラー」。(m.T.8) 鼻がひく前、それもいいよ。音がそんなにズンズンするから。

1-3. 暑さ(熱さ)

ポカポカ 快い暖かさ。○ヤッ「パ サケ ノム」ト カラダガ「ヌ「クモット」デシヨウ「ネ。ポカポカ シ「デタ ガ」。(f.T.4) やっぱり暑さを飲むと身体が暖まるのでしょうね。ポカポカしたよ(と語)。

クワット 急に熱くなる。○タ「マゴザケヤ」ラ ノムト「ネ」。「クワ」ット シテ ホ「テッ」。(f.T.4) 暑さを飲むとね。クワットして(身体が)熱くなる。

II 皮膚の感覚

ヒリヒリ 日焼けや擦り傷のとき。○ヒ「リヒ」リ ヒ「リヒ」リ ヒ「デル」。(m.T.8) と此

此北州である。

ベタベタ 汗などが出てくっつく。不快。○ア「セ ベタベタデー」 シタギ「オ キ「ガ エニヤー モ」 ベ「タベタ シヨッ。(m.T.8) 汗がベタベタ下着を濡れたいほどベタベタである。このような状態を言い表す語としてジググリがある。

ムズムズ 虫などがはい回るとき。○ム「シガ ホーッ」タ トキヤ ムズムズ スーッ「ユ。(f.T.4) 虫がつかまらぬという。

ガサガサ (カサカサ・カシヤカサ) 肌が乾燥したり荒れたりしているとき。○モー ハ「ダガ」ガ「サガサニ ナール」。ハレ「チョル」キー。(m.T.8) もう肌がガサガサになる。荒れているから。

ツルツル (トルトル・ツルツル) 肌がなめらか。

スベスベ 快。なめらか。ツルツルに比べると共通語的。

ズキズキ (ズッキズキ・ズキンズキン・ズッキンズッキン・ズキズキズキズキ)・ズキツット ○ツメオ「ー ヤッ「チェカ」ル ズ「キズキ シチェカ」ル ネ「レダッ」タ。(m.T.8) 足をやいて(船で)舟をこぎ回らなかつた。

○ズ「キ」ズキズキズキ スール。モー コラー カ「ナリ キ「レテ ネー カナ」ー。ズ「キズキズキ」ク スル ガ「ー。(m.T.8) 舟をこぎ回らなかつた。もうこぎ回らなかつた。

ジガジガ 舟をこぎ回らなかつたの程度は大きい。

チクツット (チクリ・チク) 針などで刺したとき。熊蜂が刺したり、犬が噛みついたりした時はワスツット、カツツ (クツツ) を使う。

ジリジリ しもやけなどでむずがゆいとき。○ジ「リジリ イタ」イ。カイ「ヤ」ラ ナ「ニヤ」ラ 「ネ」。シ「モヤケー」ン ヒドク カ「ケト イ「タ」シ 「ネ」。(f.T.4) 列列痛。舟がゆらゆら。しもやけをひどく掻く。

ピクピク 筋がつっているとき。○ピ「クピク イゴキヨ」ル。(f.T.4) 舟がゆらゆら。

III 頭部の感覚

3-1. 頭

ズキズキ (ズッキズキ・ズキンズキン・ズッキンズッキン) 頭が痛いとき。

ジガジガ 全体が何となく痛いとき。

ガンガン (ガンガン・ガンガン・ガンガン・ガンガン・ガンガンガンガン) 頭が割れるように痛いとき。

ワツワツ (ワツワツ) ○ソ「ガ」 トキヤ ヤッ「パ ミミノナカガ ワ「ン」ワ「ン イーマスト」 ヨ。(f.T.4) その時は(頭が痛いとき)やばり耳の中がワツワツというのでよ。

グラグラ 頭が痛くてふらふらするとき。

3-2. 顔面

ワツワツ (ワツワツ)・ワツカ (ワツカワツカ) 急に熱くなる。○シェキ「メン

ス'ルヨナ 'ネ'。(f.T.4) 締まるようね。

3-3.目

シバシバ 目が疲れたとき。○メ'ガ ツカレチカッ コ'ラー シ'バシバ ス'ル。
(f.T.4) 目が疲れてこれシバシバする。

ゴロゴロ (コロコロ) ゴミ (ヌボ) が目に入ったとき。○コ'ラ' マー ゴミガ ハ
イッチェ メ'ガ' ア'カンゴツ ナッ'タ。メ'ノナ'カ ゴ'ロゴロ ショル
'ガ。(f.T.4) これはまあ、ゴミが入って目が開かないようになった。目の中がゴロゴロしているよ。
このような状態を「ヌガ コロブ」とも言い表す。

ジリジリ ○ハ'ジャタ' ジ'リジリ スル ガ'ーキマス'ケド 'ネ'。イ'マン
メグス'リヤ ソン'ゲナ ヤツガ ナ'イト'デス。(f.T.4) 強いものはジリジリすると
言いますけど、今の目はそんなものがないのです。

3-4.耳

シャンシャン (ジャンジャン) 音がする。○ミ'ミン ナ'カガ ン'ー シヤ'ンシャ
ン ス'ル。(f.T.4) 耳の中がええとシャンシャンする。

シンシン (ジンジン・ジーント) 音がする。

ワンワン (ワンワン) 大きな音が耳の中でするとき。○ミ'ミガ ワン'ー'ワン
ユートヨ'ネー。ナン'カ ワ'イーチャ ネード カ'ー。(m.T.8) 耳がワンワン
いうのよねえ。何か悪いのではないだろうか。

ツーン 音がするとき。

ジグジグ 汗が出ているとき。

ガジヤット 耳の中が乾いて耳くそなどがあるとき。

3-5.鼻

ムズムズ・ムジムジ ○ム'ズムズ ス'ル。デ'ロゴタッチ'ヤ デ'ラー'ン コツ。
(f.T.4) ムズムズする。(くしゃみなどが)でなくてもいいこと。○ム'ジムジ スットヤ'デ ナン'
カナ'カニ' ムシガ オッ'トジャネ'ー カ。(m.T.8) ムジムジするから何か(鼻の)中に虫
がいるんじゃないか。

ツーント ○ワ'サビオ 'タ'ベスギタラ 'ネ'。'ア'ー ハナガ コ'ラ ムグ'ルゴ
タル。(f.T.4) わさびを食べすぎたらね。ああ、鼻がもげるようにぞ。

ジグジグ 鼻水がでているとき。

ズルズル 鼻水が垂れているとき。

3-6.口

(全体)

ネバネバ (ネバーネバ) 納豆などを食べて粘るとき。

ベタベタ 甘いものを食べたとき。○ベタベタ スル'ね。アンマ ア'マ'イ モン
タ'ベテ (f.T.4) ベタベタするという。あんまり甘いものを食べて。

(歯)

ガチガチ 寒さや恐怖で震えるとき。

ガクガク ガチガチよりも震えの度合いが大きい。

ズキンズキン (ズッキズキ) ○ハ'イシャ イカナ' コラー。ナ'ンショ ソー'ン
ズ'キンズキ'ン ウ'ズク モンジャキー。(m.T.8) 騒音に行かないとこれは。なにしろズン
ズンがずくものだから。

ヒリヒリ 熱いお茶や冷たい物を食べて歯にしみるとき。。

(舌)

ヒリヒリ (ヒッリヒリ・ヒリヒリ) ○トーガラシオ'ー 'ナ'ンシタラー ビ'リビ
リ シテカル ヨ'ー。(m.T.8) 餅子をなしたち(舌めち)ヒリヒリしてからぬ。

ヒリヒリ (ヒッリヒリ・ヒリヒリ)・ヒリヒリヒリヒリ)

ジーント 舌が痺れるとき。

3-7. 喉

カラカラ ○ノドガ 'カラカラニ ナッタ ガ。(f.T.4) 喉がカラカラになったよ。

シェシェ (シェシェシェ) 息が苦しいとき。

IV 胴体の感覚

4-1. 肩

ズキズキ 痛むとき。普通、コツ (凝る) で言い表す。

4-2. 胸

ダダダダ 驚いたとき。○ムネガ ダ'クダク シタ。(f.T.4) 胸がダダダした。

ジュント 悲しくて胸がしめつけられるとき。○ジュー'ント シ'メツクッ。(f.T.4)
ジュント(胸)しめつける。

4-3. 腹

(空腹)

ゴロゴロ 空腹のとき。○ム'シガ ゴロゴロ イーダストデス'ヨ。(f.T.4) 腹がゴロゴロ
するだけ。

グーグー 空腹のとき。○ハ'ラガ ヘッ'タラ イ'ゴケン ガ'ー。ソングー トキヤ
ヤッ'パ ムシガ 'グー'グー イーマス'ケ。(f.T.4) 腹がグーグー鳴らないよ。そんな時は
はり虫がグーグー言いますから。

(満腹)

パンパン 満腹のとき。○ハ'ライッペ タベタ'ラ ハ'ラガ パンパン シ'チェ シェ
ツネー。(f.T.4) 腹いっぱい食べたら腹がパンパンしてつかい。

ダダダダ 水などの飲料水を飲み過ぎたとき。○ハ'ラ'ダ ダ'ブダブ シ'ヨル'ガ。
(f.T.4) 腹がダダダしているよ。

ドブドブ 水などの飲料水を飲み過ぎたとき。○ハ'ラン ナカ'ン ド'ブドブ
ンニ アン'マ ミ'ズ'ン ノミスギチカッ。(m.T.8) 腹の中がドブドブになるあんまり

を感かす。

(腹下し)

ゴロゴロ 下痢する (ハラサゲスツ) 前。○ハ'ラガ ソントキヤ' モ 'ネー。
ム'シガ ゴロゴロ イーダストデス' ヨ。(f.T.4) 腹がその時はもうね。虫がゴロゴロ言い
たけは。

4-4. 胃

シラシラ (シラーシラ・シラーシラー) 何となく痛むとき。○ズッ'キズ'キ'ノガ イ
タイ コ'トワ イ'タイ'デス' ヨ'ネー。(f.T.4) (シラシラ系に比べて)ズッキズキの方が悪い
ことは痛いだけ。

ズッキズキ (ズキンズキン・ズキズキズキ) ○イガ ドー'モ ズ'キンズキン
ケ'ワ ショ ヨ'ー。(m.T.8) 胃がどうもズキンズキンと振っているよ。

ジカジカ (ジカジカジカジカ) ・ジカソ (ジカソ) ○イガ ジカジカ ス'ル。ム'
ネーワ ムカムカ'トユー。(m.T.8) 胃がジカジカする。物はムカムカという。

ヌキヌキ 背中に突き抜ける (下ース) ような痛さのとき。

4-5. 尻

モフモフ 居心地が悪いとき。

V 手足の感覚

(手)

ジリジリ 痺れの感覚。○シ'ビレ'チ コ'ラ ナン'ダイ ジ'リジリ ショ'ル'ガ。
シ'ビレ'チ。(f.T.4) 痺れてこれにはじかツリツリしているよ。痺れて。

(足)

ガクガク (ガククンガククン) 歩き疲れて膝がふるえるときなど。

○ヒザガ ガッ'クンガク'ン シテー。(m.T.8) 膝がガクガクした。

(その他)

ズベズベ ぬるぬる。

ヌヌヌ (ヌベヌベ) 鰻や鯨などを触ったとき。

ズルズル 鼻水のような感じのとき、○ズ'ルズル シ'チョ'ル。(f.T.4) ズルズルしている。

VI 関節(骨)の感覚

ギクギク 首を寝違えたときなど。

ボキボキ・ボキッ ○ホナー'ニ ホネガ ボキボキ ユー'タ。(f.T.4) ほんとうに骨がボキボキい
た。○ボ'キッ'ト シ'タ ガ。'ホ'ネガ オ'ルルゴタッタ'ガ。(f.T.4)
ボキッしたよ。骨が折れるようだったよ。

ワリワリ 骨が折れるようなとき。

まとめ（いくつかの気付き）

（1）語アクセントは同一の語であっても、発語ごとに種々にゆれる。しかし、例えば4モーラの場合に○●●●となることが多く、次いで○●●○がみられ、おおむね中ほどがふくらむ。

（2）①身体感覚に関わる動詞として次の語を得た。イタム・イタム、ウズク、下ース<突き刺されるように痛む>、ハズナツ<痛くなる>、スビク・スビーク<歯が瞬間的に痛む>、ヒデシユル・ヒデシル・ヒデル<表面がひりひり痛む>、シユム・シヨム（しみる）、ネタガワス・ネタガワカス（寝違う）、ツル・ツール（つる）、シラルツ（痺れる）、フルー（震える）、ヨッ・ヨル、ハラサゲス<下痢をする>、モックリカエス・ムックリカヤス<食べ過ぎたときに胸が気持ち悪く吐きたい>、ドバク（吐く）、イッカマク<咳き込む>、タギリアガル<わさびなどを食べて鼻につんとくる>、ヌクモル（暖くなる）、ホテツ<身体が熱くなる>。

また、②形容詞として次の語を得た。イデー・イデー、イタイ、サミー・サムイ、ヌクイ（暖かい）、カイー・カユイ、ハシカエ<喉がむずがゆい>、ダヤマシー<だるい>、エグイー（えぐい）、スッパイ、マバユイ（まばゆい）。

これらの動詞や形容詞は、調査項目を調査している際に出てきたものであり、組織的に調べれば、さらに多くの語がまだ取り上げられるべくして残っていると思われる。これらは、身体感覚を表すオノマトペと相補的に関わりながら、表現主体の感覚を言い表している。さらに、③例えば、ワサビを食べて鼻につんとくることを、「○「ア」ー ハナガ コ「ラ」ム「ゲ」ルゴタ^ル。(f. T. 4) 蘇、鮮明なほど」のように、比喩的な言まわしによって身体感覚を表現することもある。

（3）身体感覚をいま、かりに「快」と「不快」の二方向に見定めてみると、ニュートラルな語が存するものの、取り上げることでできた大半のオノマトペは「不快」の感覚と関わりをもっていると思われる。「不快」な感覚、言い換えれば健康な状態に危険信号を発しているものである。身体感覚を表すオノマトペという意味分野の語彙づくりの基準のありかが見えてくる。

（4）強調の方法として、(a)濁音化、(b)促音の挿入、(c)撥音の挿入、(d)特定の音節母音の長呼、(e)反復、(f)古態音の利用、等々が認められた。いま単に「強調」という言葉を用いたが、意味作用の観点からみると、そこに微妙なニュアンスが添加されているのである。

（いのうえひろふみ 広島大学文学部）